

平成21年8月27日

各位

上場会社名	クラブウ（倉敷紡績株式会社）
代表者	取締役社長 井上 晶博
（コード番号	3106）
問合せ先責任者	総務部長 本田 勝英
（TEL	06-6266-5071）

倉敷チボリ公園跡地の開発に関するお知らせ

当社は、昨年末閉園した「倉敷チボリ公園跡地（注1）」の再開発について、株式会社イトーヨーカ堂を開発の事業主体とすることを決定しましたのでお知らせいたします。

今後、株式会社イトーヨーカ堂とともに地域活性化に貢献できる事業の実現に努めてまいります。また、倉敷市が計画しております市民公園などの整備につきましても、開発プランとの整合性をはかっただうえで協力してまいりたいと存じます。

関係各位の皆様におかれましては、今後ともご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 倉敷チボリ公園跡地の開発基本方針と開発事業主体の選定について

当社は、岡山県より倉敷チボリ公園跡地返還の申し入れがあつて以降、土地所有者として、次の3点を跡地開発における基本方針とし、開発プランの策定方法について検討してまいりました。

- （1）収益性・継続性のある事業とすること
- （2）倉敷発祥の企業として地元への貢献をはかるため、倉敷駅前で街の顔という立地性もあり用地は遊休地とせずいち早く事業化すること
- （3）広い地域からの集客力のある事業とし、地域の活性化に資する事業とすること

その結果、上記の方針を具体化していくためには、専門的なノウハウを豊富に有する商業開発事業者を選定のうえ、新たな土地賃貸先として事業主体となつていただくことが最善の方法であるとの結論にいたりました。事業主体となる企業の選定のため、数社から開発についてのご提案を受け、「地元との調和」「地域活性化への貢献」「集客魅力づくり」の3点を重点評価項目として検討した結果、株式会社イトーヨーカ堂を開発の事業主体として決定いたしました。

今後、株式会社イトーヨーカ堂とともに地域活性化に貢献できる事業の実現に向けた具体的なプランの策定に入る予定です。

2. 事業コンセプト

今後、株式会社イトーヨーカ堂が次の方針を機軸に倉敷チボリ公園跡地の再開発の具体的なプランを作成することになります。当社は、これに対して土地所有者の立場から協力してまいります。

【開発方針】従来の総合スーパーやショッピングセンターとは開発のアプローチが全く異なる、街づくりの視点による「街おこし・旅おこし」の拠点開発

- 【導入機能】①倉敷の地域資源と中四国広域交流圏「三海二山」（注2）の地域資源を活用した「街おこし・旅おこし機能」
- ②長年培ったイトーヨーカ堂のノウハウを活かし地域の方の日常生活をサポート、かつ、新たな価値観と利便性を提供する「“新”生活提案発信機能」
- ③アウトレットモールを配置することにより、倉敷の観光集客力を高め美観地区との相乗効果をはかる「“新”広域集客拠点機能」
- ④倉敷の水と緑の豊かさを活かした「都市アメニティ拠点機能」

3. 開業目標

平成23年(2011年) 冬を予定。

4. 問い合わせ先

クラボウ

〒541-8581 大阪市中央区久太郎町2-4-31

大阪本社 総務部 広報グループ (担当 北勝、山崎)

TEL : 06-6266-5071 FAX : 06-6266-5555

以上

(注1)「倉敷チボリ公園跡地」

倉敷駅前にある倉敷チボリ公園跡地は、当社の倉敷工場跡地で、平成7年5月に岡山県と賃貸借契約を締結し、岡山県がチボリ・ジャパン株式会社へ転貸し、同社が倉敷チボリ公園を運営していました。平成20年12月末に倉敷チボリ公園は閉園となり、現在、園内施設の解体工事が行われており、平成22年2月末をもって賃借していた土地が当社に返還される予定です。

所在地：倉敷市寿町543番、200-2番 他

敷地面積：約120,000㎡

(注2)「三海二山」

中国経済連合会が、中国地方の統一的なビジョンとして平成8年に構築した「中国地方発展ビジョン～三海二山交流圏構想」より引用した言葉。「三海二山」とは、中四国がそれぞれの地域資源を活かしながら、東西南北方向に多様で活発な交流・連携を展開することによって、広域的な経済文化交流圏が中国山地と四国山地という二つの山を越えて、日本海、瀬戸内海、太平洋という三つの海に広がり、さらに海外へと連なっていく様子を表わしています。